
漆黒へのカウントダウン

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漆黒へのカウントダウン

【Nコード】

N0825E

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

始まりは二十年前のジョーディの両親が殺害されたところから……
少しずつ動き出す……それぞれの運命のカウントダウン……黒の組織
と直接対決……黒の組織……そして、FBIの運命は???

> 第1話

二十年前

バンッ…!!

一発の銃声が響き渡った。

ここはアメリカ。

FBIがトアル組織を追って動いている。

今、殺された男はFBI捜査官だった。

そして、殺した女は組織の幹部。

女　ベルモットはダークレッドの口紅が塗られた唇を妖しげに微笑ませた。

その時だった。

「Who are you?」

（貴方、誰？）

少女の声だった。

ベルモットは男の眼鏡を手にしたまま、人差し指を唇の前で立て、シートと、言った。

「It's a big secret…」

I can't tell you…」

（秘密よ秘密…

教えられないわ…）

ベルモットは少女を見つめて続ける。

「A secret makes a woman woman…」

（女は秘密を着飾って美しくなるんだから）

少女は目を開き、続いてベルモットが手にした物を見る。

「Those are my daddy's glasses」

（パパの眼鏡）

ベルモットは気付いたように眼鏡を渡す。

「Oh,sorry.」

(あ、ごめんなさい…)

眼鏡を受け取った少女は床に倒れる父親を見つめて言った。

「How is she doing?」

Is he asleep already?」

(パパどうしたの?)

もう寝てるの?)

残念そうな顔をする。

「He promised me a bedtime story.
y.」

(寝る前に絵本、読んでくれるって言ってたのに…)

ベルモットは妖しげに微笑んだ。

「So,will you be with daddy until he wakes up?」

(じゃあパパが起きるまでそばにいてあげてくれる?)

悪魔のように囁くと少女は嬉しそうに微笑んだ。

「Yes!」

(うん!)

それを見たベルモットは妖しげに微笑んだ。

「Good-bye,little girl」

(さよなら、お嬢ちゃん)

ベルモットはそう言い残して家を出た。

その後、家は炎上。

焼け跡からは少女の遺体は見つからなかった。

> 第2話

女が立ち去った後、少女 ジョディ・スターリングは冷蔵庫を覗いた。

「あつ… パパのオレンジジュースがなくなってる」

ジョディは財布を持って外に出た。

明かりのついた店を見つけた時だった。

「ジョディちゃんだね?」

後ろから声が掛り、ジョディは振り返った。

「うん… おじさん、誰?」

「私はジェイムズ・ブラック。君のパパの友達だ」

「パパのお友達?」

「そうだよ。パパに頼まれて君を迎えに来たんだ」

ジェイムズは手を差し出した。

「一緒に行こう」

ジョディはジェイムズの手を握る。

「うん!!」

二十分程、車で走り、着いた先はFBI本部だった。

「ここはどこ?」

「FBI本部だよ」

そして、ジョディはここで両親が殺された事を聴かされた。

「君はある危険な組織の人間に顔を見られた… 君に証人保護プログラムを受けて欲しい」

ジョディはジェイムズを睨み叫んだ。

「イヤだ!!!!」

すると、ジョディより二、三歳年上の少年が部屋に入ってきた。

「何かあったんですか?」

「いや… なんでもないよ、赤井君」

「お前もか… 証人保護プログラムを拒否したのか?」

少年はジョディに話しかける。

「う、うん」

「そうか…俺もだ」

少年は落ち着き払って答えた。

「俺は赤井秀一だ」

「わ、私はジョディ・スターリング…」

「ジョディか…宜しくな」

「よ、宜しく」

ジョディは秀一が差し出した手を握り、握手をした。

「ジョディ君…受けて欲しい…考えてくれるかね?？」

ジョディはジェームズを見た。

「受けてもいいけど…」

ジェームズが安心しかけた時だった。

「でも、それを受けるかわりに私もFBIに入れて!!」

ジェームズは驚き、秀一は密かに笑みを浮かべた。

「パパとママを殺した人を捕まえたいの!!!!!!」

「ジョディ君…気持ち分かるが…」

ジェームズは困ったようにジョディを見た。

「とりあえず、君の言い分は分かった…とりあえず、別室で少し落ち着いて」

ジェームズは女性捜査官にジョディを任せた。

そして、秀一を見る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0825e/>

漆黒へのカウントダウン

2010年10月28日02時58分発行